

L'aile d'Howl



ついに花巻の地で北東北インターハイ
の熱き戦いが実現！岩手から
ます！お楽しみに！

【ライル・ドウル：ホウルの翼(仏語)】

2011年8月

北東北インターハイ特別号

第62回全国高等学校総合体育大会

1

熱戦再来 北東北総体～ 北の空 君に無限の可能性

ついに開幕した北東北インターハイ！「北の空 君に無限の可能性」をスローガンに、平成23年度の全国高校総体が花巻の地にて開催されました。東日本大震災から約4ヶ月半、全国高校選抜大会の中止に伴い、インターハイも中止されてしまうのかという心配の声も多く聞かれる中、関係者の熱意と献身的な努力により、今回の大会が無事に開催される運びとなりました。この場を借りて、全国の関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

さて、ここからは私編集長の目線で、大会の日々をダイジェストでお送りいたします。

<開会式>リハーサルも順調に進み、総合体育館前の広場に大会グッズの販売所が設営されはじめると、徐々にインターハイの雰囲気になります。午後になると選手たちが集まり始め、賑やかさを増していきます。15時に開会式がスタート。花巻農業高校の鹿踊り部による歓迎の演舞が披露されると、同じ高校生による伝統芸能のパフォーマンスに大きな拍手が送られます。その後、前年度優勝の男子・北陸高校、女子・洛北高校を先頭に、各チームが入場し、岩手県代表・不来方高校の男女キャプテンによる選手宣誓が行われました。震災からの苦労の日々、全国から寄せられた支援と励ましに感謝し、ハンドボールが出来る幸せを感じながら全力で試合に臨むという、本当に素晴らしい宣誓でした。最後は花巻南高校合唱部による合唱でフィナーレを迎え、滞りなく開会式が終了しました。岩手・花巻の歓迎の気持ちが少しでも伝わったでしょうか。



<7月29日>いよいよ戦いの火蓋に切られます。3会場に分かれての試合開始。編集長は富士大学にて大会役員業務。昨年の上級審判試験を一緒に

受けた新潟県の審判員と再会。スポーツイベントハンドボールの皆さんにも再会し、また全国大会でお会いできたことに感激でした。朝は比較的涼しかったものの、試合が進むにつれ熱気がこもり、汗のためボールの交換が頻繁に行なわれることに。コート係の先生、補助員たちも大活躍でした。やはり夏の大会だなあ。この日岩手県代表として最初に登場した女子・盛岡白百合学園は、インターハイ初出場に緊張しながらも善戦しましたが、全国の壁は厚く、初戦を飾ることはできませんでした。選手たちには非常に良い経験になったと思います。



<7月30日>本日は花巻市民体育館で役員業務。緒戦には女子・不来方高校が登場。佐々木明日香選手、藤原千寛選手(ともに花巻クラブジュニア→花巻中)の活躍に、後輩たちも横断幕を持って応援に駆けつけました。試合は接戦となり、後半最後、遠藤美南選手がカットインプレーで7Mスローをゲットすると、エース藤原選手がそれを落ち着いて決め、試合は延長戦へと突入します。最後まで粘った不来方高校ですが、第1延長をものにできず、初戦敗退となりました。チーム得点23点中12点を叩き出した藤原選手の活躍が光った試合でした。



←「広報はなまき」の表紙を飾った藤原千寛選手のシュート

その後花巻市総合体育館で行われた男子・不来方高校 VS 興南高校(沖縄)の1戦は、会場がはちきれんばかりの観客数を記録。昨年の沖縄インターハイで7Mコンテストの末に敗れた興南高校は、エースの東江雄斗選手を中心にリベンジに燃えます。序盤は不来方キャプテンの千葉敦選手の活躍でリードしますが、中盤から徐々に追いつかれ、最後は33vs26で興南にリベンジを許してしまいました。残念ながら私は生で試合を観ることができませんでしたが、非常に盛り上がった素晴らしい試合だったそうです。組み合わせという運も実力のうちか。

↓中花仁選手(花巻クラブジュニアOB)



組み合わせで言えば優勢と思われた開催地代表の盛岡第一高校は、法隆寺国際高校との一戦、残念ながら2点差を詰めることができず初戦敗退。久しぶりの出場をばねに今年度末の全国選抜大会に向けて頑張してほしいと思います。



なお、この日、前年度優勝校が男女とも姿を消しました。やはり高校生の試合は何が起こるかわからない。だからドラマがあります。

<7月31日>全国大会に出場するチームは、本当にそれぞれの戦略とプレースタイルがあります。今大会を通じて、絶対的エースの強打に頼るチームスタイルはほとんどなく、とにかくボール回しと機動力。そのため、身長がさほどないチームでも上位に勝ち進んでいるケースが多いです。大分雄城台の両サイドは小さいのに良く走るし、小林秀峰や興南も足を活かした素晴らしいディフェンスを見せます。あとは軸がぶれない体幹の強さ。これらを強化しているチームが上位に入ってくるのではないのでしょうか。

<8月2日>いよいよ準決勝。前回の全国高校選抜大会で決勝に勝ち進んだ山口県代表・華陵高校が東京都代表・佼成学園女子高を破り、花巻の地で再度決勝進出を決めます。そして、富山県代表・高岡向陵高が、花巻で一度優勝を飾っている全国上位の常連、大阪府代表・四天王寺高を20-17で下し、決勝へと駒を進めました。

一方の男子は、前年度優勝校の北陸高を初戦で破った宮崎県代表・小林秀峰高が、国体に向けて強化を図ってきた山口県代表・下松工業高を撃破しました。また、神奈川県代表・法政二高と茨城県代表・藤代紫水高の試合は、一時法政二高が7点差まで引き離したのですが、後半10分藤代紫水が怒濤の攻撃で一気に同点に詰め寄り、終盤の



接戦を制した藤代紫水高が決勝の舞台へと躍り出ました。3位表彰式も滞りなく終わり、いよいよ決勝戦を迎えます。



<8月3日>ついに迎えた最終日。女子決勝は赤のユニフォーム高岡向陵高と、黄色のユニフォーム華陵高の対戦となりました。いつの頃からか、ここぞという試合は赤と黄色のユニフォームの登場回数が増えてきました(昨年のインターハイ男子決勝もでしたね)。U-18にも名を連ねるエース佐々木春乃選手の強打を中心に戦う高岡向陵。チーム全体のスピードと効果的なポストプレーで得点を重ねる華陵。この勝負を分けたのはGK。ことごとく得点チャンスを阻み、リバウンドまでシャットアウトした水落GKの活躍により、次第に点差が開き、24-17でゲームセット。華陵高校はついに花巻の地で決勝戦を制し、嬉しい優勝を果たしました。

男子決勝は小林秀峰高 vs 藤代紫水高の顔合わせ。スピードとステップの軽快さで得点を重ねる小林に対し、力強いミドルシュートで対抗する藤代紫水。前半は小林秀峰ペースで進み、前半で17-7の10点差。



しかし、前日の準決勝も後半の追い上げで勝利した藤代紫水。やはり後半に入り得点ペースを上げてきますが、後半終盤まで足が止まらなかった小林秀峰高がリードを守り、全国の頂点に輝きました。試合終了の瞬間、監督と抱き合って涙する荒木キャプテンの姿が印象的でした。

その後閉会式も無事に終わり、暑い夏の大会が閉幕しました。チーム役員、選手の皆さんはもちろん、大会運営に携わった役員、補助員の皆さん、本当にお疲れ様でした。今回の大会経験を、来る11月の全日本インカレ、来年3月の全国高校選抜大会につなげていければと思います。



<総括>

今回の北東北インターハイは、東日本大震災で開催が危ぶまれたにも関わらず、天候にも恵まれ、また全国から寄せられた多くの支援と励ましにより実現させることができました。また花巻の地でお会いできることを楽しみにしています！

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)
2011年8月特別号
2011年8月25日発行

発行: 花巻市ハンドボール協会
Special thanks to: 花巻市、
広報記録係の皆様